

平成 28 (2016) 年度  
NGO 海外スタディ・プログラム最終報告書

提出日	2017年2月3日(金)	
氏名	田村 愛弥	団体印
所属団体(正式名称)	特定非営利活動法人ソルト・パヤタス	
受入機関名(所在国)	KIPP HOUSTON HIGH SCHOOL (アメリカ合衆国)	
研修期間	2016年10月10日～2016年12月8日	
研修テーマ	ライフスキル教育の実践に不可欠な教員及び保護者の巻き込み方と能力開発	

目次

1. 導入
  - 1-1. はじめに
  - 1-2. 課題解決のアイデア
  - 1-3. 研修先と研修方法
  
2. 本文
  - 2-1. 教師の情熱と徹底した指導
  - 2-2. 教師の独創性と裁量
  - 2-3. 言語環境とマインドセットの関係
  - 2-4. 保護者は最強の協力者
  - 2-5. 性格の強化と評価
  
3. 考察・提言
  - 3-1. 結論
  - 3-2. 本研修成果の自団体、NGO セクターの組織強化や活動の発展への活用方針・方法
  - 3-3. 日本の国際協力及び教育分野への提言
  
4. 団体としての今後の取り組み方
  
5. その他
  - 5-1. 写真

## 1. 導入

### 1-1. はじめに

弊団体ソルト・パヤタス（以下、ソルトとする。）は、フィリピン、ルソン島のマニラ首都圏及び郊外の再定住地域（ケソン市パヤタス地区・リサール州カシグラハン地区）にて、子どもたちのための教育支援を行っている。地域には安定した就労の機会が少なく経済的に厳しい状況にある家庭が多く、学齢時の子どもたちであっても家事や就労を余儀なくされる実態だった。そこで、1995 年よりソルトは奨学金事業を開始した。2009 年には、JICA 海外事業アドバイザー派遣制度を活用し専門家を交えた参加型評価を実施した。評価では、奨学金給付による一定の成果を確認したものの、学費支援を受けながらも学校を自ら中退していく子どもたちを減らすことができていない事実も目の当たりにした。その原因として、家庭内不和、両親の不在、友人や周囲の大人の悪癖や悪習慣など、学習以外の要因が大きかった。そして、それらが子どもたち自身の学習意欲や人生に対する意欲にも大きく影響してしまっていた。つまり、就学支援や学力向上支援以上に、子どもの生活改善のための能力やよりよく生きる技術を高めることが求められていた。こうして 2010 年からライフスキル教育が事業に取り入れられた。2015 年に再び実施した参加型評価では、依然と中退者は約 15 パーセントを占めた。しかし、ライフスキル教育が裨益者の記憶に最も残り、彼女ら彼らの自己肯定感が上がったことがわかった。ライフスキル教育の効果を更に高め、普及可能なものにするため、2015 年より新たなライフスキル教育構築事業に着手し、主要な対象を、子どもたちの発達に多大な影響を与える保護者や教師と定めた。国際協力機構（JICA）草の根技術協力事業にも採択され、カシグラハン地区にライフスキル教育の実践の主な場となるセンターを建設することができた。しかし、ライフスキル教育を推進していく人材は限られており、肝心のプログラム内容についても過去の活動事例をかき集めたり、書物やインターネットから得られる情報を利用したりしたもので、決して十分なものではなかった。本プログラムが、効果的かつ継続的なものとなるよう保護者や教師などの現地の大人が子どもたちへのライフスキル教育の重要性を理解する必要があるとあり、現地住民の傾向やニーズに合致した方法を取り入れることで、主体的な参加を促すことができると考えた。よって、本研修テーマを「ライフスキル教育の実践に不可欠な教師及び保護者の巻き込み方と能力開発」とした。

※1 ライフスキルとは、世界保健機関（WHO）が日常の様々な問題や要求に対して、より建設的かつ効果的に対処するために必要不可欠な能力と定義付けた 10 の技術のこと。自己認識、共感性、コミュニケーション、対人関係スキル、意思決定スキル、問題解決スキル、創造的思考、批判的思考、感情対処スキル、ストレス対処スキルが掲げられている。ソルトでは、これらの技術を育む土台とした「生まれや置かれた環境にかかわらず、継続した努力によって課題や困難を乗り越え成長し続けることができる」と信じる力を「ライフスキル」と定義している。

### 1-2. 課題解決のアイデア

ライフスキル教育を組織的に取り入れている教育現場に様々なヒントがある。アメリカ合衆国では、数十年前から非認知スキルの研究が進められている。例えば、2000 年にノーベル経済学賞を受賞したシカゴ大学教授の James Heckman 博士は、40 年以上にわたる追跡調査から、就学前の環境や大人の働きかけが最も効果的に子どもたちのやる気や忍耐力といったライフスキルを伸ばすだけでなく、就学後の学力向上にも好影響を与え、よりよい人生を送ることができると明らかにした。これらの影響を受け、多くの教育現場でも非認知スキルの育成を重視した活動が早期から取り入れられている。実際に、ソルトがフィリピンの事業地でこれまで活用してきた書物やインターネット上の事例はアメリカ合衆国やカナダにおいて実践されたものが多くあった。その中でも、ライフスキルを「性格の強化」として学校カリキュラムに取り入れ、学校と保護者が一体となった教育活動を実施している学校機関で実務研修を行うことで、ライフスキル教育を実践するために不可欠な保護者との関係づくりや教育活動参加への動機づけを含む具体的なノウハウを学ぶことができるのではないかと考えた。そして、そこから体得した知見をフィリピンの現場に持ち帰ることで、現地の実態に最適化したプログラム構築のための原材料にできる。将来的には、教育支援団体としてライフスキル教育の分野の専門性を高め、フィリピンの現場だけでなく日本の教育現場に還元していくことを見通した。

### 1-3. 研修先と研修方法

本研修先に、アメリカ合衆国テキサス州の KIPP Houston High School (以下、KHHS とする。)を選んだ。KIPP とは Knowledge Is Power Program の略で、Teach For America※2 の卒業生によって 1994 年に設立された全米最大のチャータースクール※3 である。(2017 年 1 月現在までに 200 校で約 80,000 万人が在籍している。)ヒューストンだけでも、KIPP が 26 校展開されており、KHHS はその一校である。同キャンパス内に KIPP Shine Preparatory School や KIPP Academy Middle School が併設されている。KHHS には 9 年生から 12 年生までの 683 名の子どもが在籍しており、出席率は平均 98% と非常に高い。人種の割合は、ラテン系 78.9%、アフリカ系 17.8%、アジア系 2.2%となっている。また生徒の約 81%は就学補助(昼食代)を国から受給しており、経済的に厳しい家庭の出身である。KHHS は、教育目標に「子どもが大学や人生において成功するために必要とされる学力、知識や性格を習得できること。成功のためには、学力と同様にライフスキル(批判的思考、自己抑制、組織、自己主張、コミュニケーション、そしてリーダーシップ)を必要とする。」と掲げている。つまり、生徒たちは、困難な状況に置かれたときにどう考え行動するのか、どうやって乗り越えるのか、他人にどのように思いやりを示し助けあうのかといったよりよく生きていくうえで必要とされる技術を日々学んでおり、これらが KIPP におけるあらゆる学習の基盤になっている。校舎やキャンパスのあちこちには、KIPP のモットー「近道はない。(There are no shortcuts)」や「勤勉であれ。人にやさしくあれ。(Work Hard. Be Nice.)」「全員が学ぶ。(All of us will learn)」といった看板や掲示物が掲げられている。この KHHS にて、2 か月間の実務研修を行った。快く受け入れてくださった Mohamad Maarouf 校長をメンターとし、9 年生のライフスキル教育を担当する Ashleigh Miller 教諭の教育補助を行った。

※2 Teach For America とは、優秀な学部卒業生や社会人経験のある若者を 2 年間、教育困難地域の学校に赴任させるプログラムを実施する教育 NPO。2010 年には、全米文系学生・就職先人気ランキングで Google や Apple などの大企業を抑えて 1 位となった。

※3 チャータースクール(特別認可学校)とは、州政府の認可を受けた民間団体などが公費で自主的に運営する公立学校。学区で指定された教科書や標準化された指導案に従わず、独自の教育が展開できる。

## 2. 本文

### 2-1. 教師の情熱と徹底した指導

情熱的な教師は子どもを惹きつける。わかるようになるまで教えてくれる教師を信頼するようになる。教師と子ども間に信頼関係が結ばれて初めて子どもは個性を発揮し、授業が主体的な学びの場となる。並行して、保護者もそんな教師に心を開くようになる。KIPP は以下の 3 点から、情熱的な教師によって徹底した指導が行われている。

#### ① 長時間授業

KIPP は一般の公立学校と異なり 1 日 9 時間の長時間授業を行う。(公立学校は 1 日 6 時間。)それに加えて、隔週で土曜日授業が行われ、夏休みにも約 3 週間の授業や特別活動が予定されている。

#### ② 秒刻みのスケジュール

午前 7 時 45 分から授業は開始し、1 教科 60 分きっちり行われる。(月・木…55 分授業、火・水…60 分授業、金…50 分授業)授業と授業の隙間時間は 5 分である。この 5 分でロッカーにある教科書やノートを取り変え、教室を移動しなければならない。教室に入ると、始業のチャイムが鳴るまでに取り組むべき課題が黒板やスクリーンに示されている。よって、早く教室に入っても友達とお喋りなどする時間はほとんどない。廊下では、授業をもたない職員らが「3 分前!」、「1 分前!!」、「30 秒前!!!ほら、急ぎなさい!」と声をはって子どもたちに時間の経過を意識させる。

#### ③ 補習授業

授業で理解が厳しいと判断された子どもや宿題や課題が進んでいない子どもは、昼休みに補習を受ける。KHHS の昼休みは 55 分ある。補習に呼ばれた子どもは、昼食を簡単に済ませて指定の教

室に向かう。補習と言っても、個人指導及び面談が主な目的である。子どものつまずきを解消するために、授業内容をより丁寧に教えたり、課題が進まない根本的な原因を探るために子どもと向き合ったりする。

#### 【エピソード A】

ある 9 年生の英語の授業で黄色のチケットが数人に配られる。補習授業への招待状だ。出席しないと居残りとなるので、強制とも言える。9 年生の補習授業は、学年全体で行われるため参加者は大人数となる。そのため、指定場所は体育館となり、長机でできた数学と英語のブースがいくつもある。副校長先生を含む教師 5、6 名が生徒を迎え入れ、入口で出欠をとる。大半が真面目に教師の話聞くが、中には退屈そうにしている子や遅れて来る子もいる。そこで、ある女子生徒に「どうして補習に来たのか」「せっかくの昼休みに遊びたくないのか」と尋ねたところ、「勉強がわからないままだと私が困るし、このチケットは Heather 先生の愛だから。」と答えた。

ライフスキル教育を実施する上で、子どもたちや保護者との間に信頼関係を構築することができ、教育に弛まぬ情熱を注ぎ、高い指導力をもつ人材が不可欠である。では、どうすればそのような人材を見つけることができるのだろうか。KHHS の Maarouf 校長によれば、採用面接時に Growth Mindset を意識した質問を投げかけるという。Growth Mindset とは、スタンフォード大学の Carol Dweck 博士によって、定義された概念で、人間には Fixed Mindset (固定した思考態度) と Growth Mindset (成長する思考態度) があると言われている。前者に近い考え方をする人は、人間の能力は石版に刻まれたように固定的で変わらないものだと思っている人で、後者に近い考え方をする人は、人間の基本的資質は努力次第でのばすことができるという信念をもつ。KIPP に通う多くの子どもは、一般に教育の質が高いとさえしている私立学校に通うことのできない経済的に貧しい家庭の出身であり、学習面だけでなく生活面や心理面でも大きな課題を抱えている。そんな子どもたちであっても、すべての子どもに高い期待をもち、根気よく指導し続け、さらには結果を出すための努力をするには、Growth Mindset に近い考え方をしていることが必須である。それを見抜くために、例えば校長は「どのようなときに教育の限界を感じますか?」と面接時に候補者に尋ねる。

#### 2-2. 教師の独創性と裁量

教育や子どもの成長に情熱のない教師はいない。その情熱が絶えることの無いような組織体制であるべきだ。KHHS では、教師は受けもちのクラスの指導だけに集中できるよう、学校運営に関わる校務は一切行わない。さらに、指導方法は教師の裁量に任せられている。よって、電子黒板を活用して動画で授業内容を印象付ける教師もいれば、手作りのプリントをファイリングして知識を蓄積させる教師、ラップのようなチャッツを自作し体を動かしながら学習を進める教師など様々だ。ただし、その方法が子どもたちにとって意欲的な学習参加となり、子どもたちの学力向上や性格の強みといった結果を出す場合に限る。つまり、KHHS の教師はスタイルや思想で評価されない、結果主義を貫いていると言える。よって、管理職は週に一度は 03 ミーティング (One On One Meeting の頭文字) と呼ばれる教師との面談を欠かさず行う。すべての教師が子どもの成績の推移をデータ化しており、それをもとに面談が実施される。管理職も頻繁に授業を参観する。また、職員会議の時間は 30 分以内と決められている。全職員が電子掲示板上で事前に情報を共有することができるため、(キャンパス内は Wi-Fi が完備されている。) 会議は最小限に済ませるべきだと考えている。こうして、教師が授業づくりや子どもとの関係づくりに集中できる。

#### 【エピソード B】

Miller 先生は、週に 2 回、子どもが教室を出ると同時に彼女も学校を後にする。彼女は、KHHS で教師として勤務する傍らジャーナリズムを専攻する修士課程の学生でもあるからだ。学校教育におけるメディアの位置づけや活用に関する知識を習得し、子どもたちがさらに効果的に学習を深めるため新たなジャーナリズムの機能を研究しているという。子どもたちも彼女が勉強を続けていることやその目的を理解しているようで、「Good luck, Ms. Miller」と帰り際に挨拶する子どももいた。

教師の職務は、子どもを指導することである。その職責の遂行のために、絶えず研究と修養に励むことを可能とする組織体制でなければならない。教師の個性や指導への意欲が、伝統的な慣習や授業以外の雑務等によって失われることがあってはならない。KHHS の教師がいきいきと教鞭をとるのは、

教師の能力開発のための特別な研修プログラムが提供されているからではない。もともと持ち合わせた教師一人ひとりの教育への情熱と高い学習意欲が最大限に活かされているからだ。

### 2-3. 言語環境とマインドセットの関係

子どものマインドセット（思考態度）に、言語環境が非常に重要な役割を果たす。言語環境とは、教師の口癖や校訓・訓級などの合言葉、そしてそれらを視覚化した掲示物等を指す。人は一度耳にしたことを忘れていくものだが、言語環境はリマインダーの機能を果たすため、記憶に残るようになる。そして、何度も耳にしたり、目にしたりしているうちに、その内容が子どもの思考態度に影響していく。KHHS には、多くの掲示物が校内のあちこちに見うけられる。政治家、俳優、科学者やスポーツ選手などの格言も写真と共に並べられている。すべて、子どもたちに向けたポジティブなメッセージだ。努力することの尊さや仲間を大切にすること、そして私たちには可能性があることを繰り返し示唆している。例えば、「Class of 2023」。これは、現在 9 年生の学年名である。KHHS を卒業する年だと計算が合わない。2023 年とは、彼ら彼女らが大学、しかも 4 年制大学を卒業する年なのだ。子どもたちは、長年にわたって Class of 2023 と呼ばれたり、名乗ったりする中で、自分たちは 4 年制大学を卒業するという目的意識をもつようになる。2015 年には Class of 2019 の卒業生のうち 93% が最難関校を含む 4 年制大学に合格している。一方で、掲示物への人の注意や意識は、徐々に薄れ、壁紙と一体化してしまうリスクもある。大人が意識して掲示物を活用したり、定期的に張り替えていくことも忘れてはならない。

#### 【エピソード C】

「全員が学ぶ。(All of us will learn)」この言葉は、KIPP のモットーでどの教室にも掲げられているものだ。教師が子どもたちを励ます際によく耳にする言葉でもある。ある日、数学の授業で、男の子が一人床に寝そべったまま起きなかった。彼は、発言ができるディスカッションの時間は進んで参加するがプリント学習になると意欲をなくしてしまう。その度に、教師は彼の名前を呼び、顔を上げさせた。続いて、教室の後方に掲示された文字を読むように指示された。「…All of us will learn。」教師は続ける。「そうだ。この教室では全員が学ぶ。君が寝てしまうと、学んでいるのは全員でなくなる」と伝えた。彼はゆっくり体を起こし、やや不機嫌そうに着席した。

言語環境は習慣を形成し、習慣は文化となり、文化が子どものマインドセットに影響を与える。よって、学校や施設において言語環境を統一することは非常に重要である。また、合言葉のようなフレーズにすると記憶に残り定着しやすい。

### 2-4. 保護者は最強の協力者

保護者が子どもに与える影響はとてつもない。子どもとの関係が強いからだ。また、子どもは学校では見せない一面を家庭では見せることもある。教師が積極的にコミュニケーションを図り保護者と良好な関係を築き、学校と家庭が協力して子どもを育てていくべきだ。そのために KHHS では、教師は頻繁に保護者に電話をしたり、家庭訪問をしたりしている。学期に 1 度の通知表の日には、保護者は学校に赴き、子どもの頑張りを認め、今後の課題を教師と話合うことになっている。このように、子どものために学校と保護者が協力することは予め入学前の「努力の誓い」にて確認されている。「努力の誓い」とは、教師、保護者、そして子どもがそれぞれ努力すべき項目が明記された誓約書である。（詳細は以下参照。）また、サンプルは廊下に掲示してあり必要に応じて指導に活用されている。

#### 【教師の誓い】

- ・私たちは〇時〇分までに出勤します。
- ・私たちは〇時〇分まで KIPP にいます。
- ・私たちは指定の土曜日の〇時〇分から〇時〇分まで KIPP にいます。
- ・私たちはつねに最高の指導方法で生徒の学習のために最善を尽くします。
- ・私たちはつねに子どもと保護者の求めに応じ、対処します。
- ・私たちは教室内において子どもの安全・利益・権利を守ります。

これらの誓いを破った場合には、KIPP を退職します。

#### 【保護者の誓い】

- ・私たちは〇時〇分までに子どもを登校させます。
  - ・私たちは〇時〇分まで子どもを KIPP に残らせます。
  - ・私たちは指定の土曜日の〇時〇分から〇時〇分までの講習に参加させます。
  - ・私たちは常に最高の方法で子どもの学習を助けるために最善を尽くします。子どもの宿題を每晚確認し、わからない場合は先生に電話をさせます。
  - ・私たちは子どもが欠席する場合は、できるだけ早く教師に知らせます。
  - ・私たちは学校からの書類はすべて丁寧に目を通します。
  - ・私たちは子どもに KIPP の服装規則を守らせます。
  - ・私たちは教室内において子どもの安全・利益・権利を守るため、子どもが KIPP の規則を守らなければいけないことを理解しています。
  - ・子どもの行動に対する責任は、学校ではなく、私たちにあります。
- これらの誓いを破った場合には、子どもは様々な KIPP の特権を失います。

#### 【子どもの誓い】

- ・私は〇時〇分までに登校します。
  - ・私は〇時〇分まで KIPP に残ります。
  - ・私は指定の土曜日の〇時〇分から〇時〇分までの講習に参加します。
  - ・私はつねに最善の行動をとり、学び、考えます。私やクラスメイトが学ぶために最善を尽くします。毎晩、宿題を仕上げ、わからない場合は先生に電話をします。授業中に困ったときは、手を挙げて質問します。
  - ・私はいつも親や先生の求めに応じ、解決できるよう努力します。失敗したら、先生に話し、行動に対する責任を受け入れます。
  - ・私は教室内のすべての子どもたちの安全・利益・権利を守るために行動します。つねにクラスメイトの意見を聞き、敬意を払います。
  - ・私は KIPP の服装規則に従います。
  - ・私は自分の行動に責任をもち、先生の指示に従います。
- これらの誓いを破った場合には、私は様々な KIPP の特権を失います。

#### 2-5. 性格の強化と評価

ライフスキルも学力と同様に学習の評価が行われるべきだ。評価を行うことで教師は、指導法やその効果を確認できる。そして何より、子どもと保護者がライフスキルの学習状況を把握できるため、今後の目標を立てやすくなる。KIPP では、ライフスキルを「性格の強化 (Character Strengthen)」※4 とし、学力と同様に、性格は鍛えられるものだと考える。よって、ライフスキルも徹底した指導と数値による評価がなされている。授業の内容は、子どもに身近な題材について、ディスカッション形式で意見を交換しながら、考えを深めていくものだ。例えば、ある大学のキャンパスでゴリラのマスクを着用したグループの学生らが、アフリカ系の学生に対してバナナを渡して冷やかすという人種差別が起きた。記事を全員で読み、この事件についてどう思うか、どうしてこのようなことが起きるのか、被害者に対してどう思うか、自分だったらどうするか、自分にも起こり得る出来事かなどを話し合う。教師も意見を述べる。最終的に、考えをまとめ、プリントに記述して提出するのだが、これは評価に結び付かない。議論はあくまでも教室内で行われるものでそこで表現され、主張された価値が当人の行動に結びついているかは別物であるからだ。

それでは、どのように性格が強化されたかどうかの評価がなされるのだろうか。「性格の通知表 (Character Report Card)」には、次の 7 つの項目が記されている。①情熱 ②やり抜く力 ③自制心 ④楽観性 ⑤感謝する心 ⑥社会的知能 ⑦好奇心 これらの 7 点について、授業を受け持つすべての先生から日ごろの態度、言動、行為から総合的に評価される。5 点満点の数値で評価され、その平均が子どもと保護者のもとに返されるという仕組みだ。通知表を手にする前に自己評価を行い、実際の教師による評価と照らし合わせ、子どもに考える機会を与える。Character Strengthen 主任の Dominic 先生によれば、通知表そのものの重要性は低いという。彼女は、子どもに関わる全ての大人が「性格は変わる、強めることができる」と心から信じ、そのための方法を子どもたちに根気強く伝え続けることが大切だと考えている。

#### 【エピソード D】

情熱の項目が 2 の評価を受けた男の子がいた。「納得がいかない。がんばったのに。」とこぼす。Dominic 先生は、「発表はどうだった？」と尋ねる。どうやらほとんど発言をしたことがないようだ。来学期からは、発言の回数を増やすよう努力してみることを約束した。

「性格の通知表」のように、数値で評価されることで学習の状態が視覚化される。また、最も重要なことは、教師が性格の改善のためのヒントを子どもに伝えることだ。保護者も一緒に話を聞き、家庭でも協力してもらおう。そうすることで、教師だけでなく、子どもや保護者も、性格は学力と同様に大切な「習得していく」ものであることが理解されるようになる。そして、意識的な努力を学校と家庭の両方で促すことができる。

※4 ライフスキル教育の呼称は、学校によって異なる。初等教育から中等教育までが「Character Strengthen」、高等教育では「Freshman Seminar」という名の教科に位置付けられる。

### 3. 考察・提言

#### 3-1. 結論

ライフスキル教育を実践する教師に向けた特別な研修や子どもたちの保護者を巻き込む特別な手法は特に存在しなかった。確認できたのは、人の可能性を信じる教師のマインドセットと教育への情熱だった。KIPP は子どもたちの「成功」※5 のために、学力向上とライフスキルの習得の両方に力を入れる。ライフスキルは、学校や家庭における教育活動全体を通して育まれる非認知スキルであることから、教師と保護者がよりよい関係を結び、協力・連携することが求められる。そのために、まず学校は、生まれや育ちに関わらず全ての子どもは学ぶことができると人の可能性を信じる人材を採用する。つまり、優秀な教師を育てるために、KIPP が特別な研修やトレーニングを用意している訳ではない。学校が大事にしていることは、教師らが元々そなえたマインドセットや教育に対する情熱が疲弊やストレスなどによって消耗されないように、教育活動と教育事務を完全分担制にしていることだ。こうすることで、教師は授業や授業の準備、学級や子どもの課題に集中することができる。子どもが抱える学習や生活に関する課題に学校と家庭が共に向き合うために、放課後の時間を保護者との時間（電話や家庭訪問、保護者会など）に充てられる。そして、我が子の可能性を信じ、熱心に力を尽くす教師の姿に多くの保護者は心を開き、教育活動に時間を割くように意識するようになる。こうして KIPP では、保護者を巻き込んだ教育活動が実現されており、その効果は子どもの姿に具現化されている。

※5 KIPP の定義する「成功」とは、子どもたちが 4 年制大学に入学し、卒業すること。

#### 3-2. 本研修成果の自団体、NGO セクターの組織強化や活動の発展への活用方針・方法

まず、KIPP は公教育である一方、フィリピンのセンターは利用者が流動的なインフォーマル教育であることをここで確認したい。つまり、センターにやって来る子どもたちに活動参加を促すことはできても、強要はできない。またセンターの規模から、一度に受け入れられる子どもたちも 20 名程度と限定される。このような状況を踏まえ、上記の結論からフィリピンにおける活動の発展と組織の強化のためにライフスキル教育を担当するフィリピン人スタッフの採用のあり方や働き方を再度検討する。そして、保護者へアプローチを強化していく。さらに、子どもに関わる全ての大人の言葉づかいについても丁寧に見直す。詳しくは、「4. 団体としての今後の取り組み方針」に詳述する。

#### 3-3. 日本の国際協力及び教育分野への提言

人を育てる教育という非常に重要な分野に関わる団体・個人に向けて、以下の 3 点を提言する。

1 点目は、大人の言葉づかいを見直すことである。日本国内外問わず、特に貧困地域においては、不適切な言葉や差別的な発言をよく耳にする。悲しいことに、それを教師や保護者が発信している場合は少なくない。例え、その言葉が子どもたちに向けられたものでなかったとしても、子どもたちは大人の言葉のシャワーを浴びて育っている。言葉の真の意味を正しく教えられることもなく、耳にした言葉を平気で使うようになる。相手を攻撃する言葉として使うようになる。そのような言葉は、やがて習慣化し、集団の中で使われ始めると、学級や学校の文化となってしまう。そして、将来的に子ども

もの思考態度に大きな影響を与えることは明白である。逆に、人の可能性を肯定する言葉かけを通して、言語環境を整えた場合はどのような効果を与えることができるかを考えてみて頂きたい。

2 点目は、採用のあり方を見直すことだ。人材を採用する際に、マインドセットを見抜けるような選考を行うべきだ。子どもと接する仕事を担う者であれば尚更慎重に採用する必要がある。前述のように、これまで大人が身につけた思考態度によって、発信される言葉づかいが異なるからだ。途上国では、学歴や資格を重視されて採用される傾向がある。教育的な環境に恵まれた幼少期を過ごした人こそ、思考態度が固定化してしまっている可能性も高い。そのようなマインドセットをもった教師や保護者は、大人の指示通りにできない子どもや大人の説明が理解できない子どもに対して、できない理由を子どもたち自身に押し付けてしまうことがある。実際に、フィリピンや日本の公教育現場でも力でも押しつけるような指導が今でも行われている。子どもが指示に従うことが難しいのは、その子どもの発達段階や実態に合わせることができていない大人に理由があるのではないか。「この子はダメな子」と決めつけるか「教え方を変えてみよう」と奮起するかは教師や保護者のマインドセット次第だ。つまり、関わる大人の考え方が言葉を通して、子どもの可能性を大きく変えていく。教師や職員の知的能力もある程度大切だが、子どもの成長に関してどのようなマインドセットをもった人であるかも評価項目に入れる必要がある。

最後に、教師の働きかたの見直しである。担任が行う必要がある業務のみに教師が専念できる組織体制であるべきだ。教師は、数十名の子どもたちを前に朝から夕方まで、様々な方法で試行錯誤しながら指導にあたっている。子どもたち一人一人を理解し、より良い授業・指導を行うために準備時間とエネルギーが必要だ。よって、教師は子どもたちやその保護者との関係づくりや授業に十分に集中できるよう配慮されなければならない。

#### 4. 団体としての今後の取り組み方針

フィリピンの現場では、学校と地域のセンターの役割を区別した上で以下の3点に取り組む。

##### ① 子どもの個人ファイルの作成を徹底し、子ども理解に努める。

KIPP の教師陣のように、子どもと家族のような関係を築くために事実をベースとした情報を収集し、子どもと信頼関係を築いていく。学校と異なり、センターを利用する子どもは必ずしも固定していない。しかし、個々の子どもの家庭環境などの実態を理解して接することは必須である。子どもの置かれている状況を知ること、好ましい働きかけも異なってくるからだ。子どもと一緒に家に帰るなどして保護者と関わりながら情報収集に努める。また、それらの個人情報外部に流出しないよう最終的にはデータ化した上で管理していく。

##### ② ライフスキルの理解普及、担当者の配置

ライフスキルの基本概念やその重要性についての情報を分かりやすく伝え、最新の調査研究情報を現場の状況に適した方法で発信する必要がある。そのために、Growth Mindset に近い考え方をもったフィリピン人を採用し、ライフスキル教育を推進していく。

##### ③ マインドセットを強化するための言語環境づくり、誓いの導入

職員一人一人の日頃の言葉づかいを見直すことは必須である。それに加えて、センター内の貼り紙、子どもの反応に対する声のかけ方が一貫するよう見直す。子どもたちを含めた関係者全員による「誓い」の導入などを通し、センター利用の目的意識を強化するとともに、保護者をライフスキル教育に巻き込んでいく。

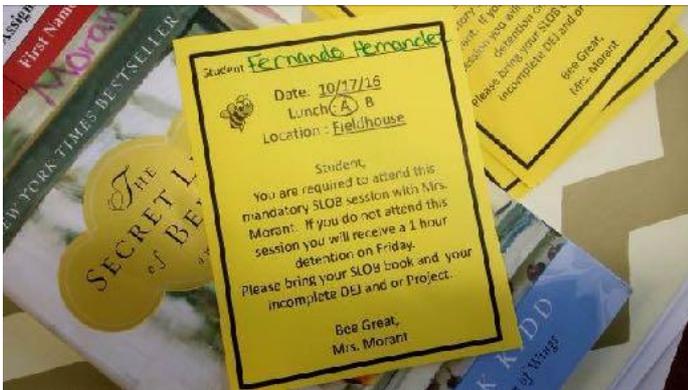
5. その他  
5-1. 写真



▲キャンパス外観



▲正門前の看板



▲補習の招待状



▲昼休みに補習を行う子どもと教師



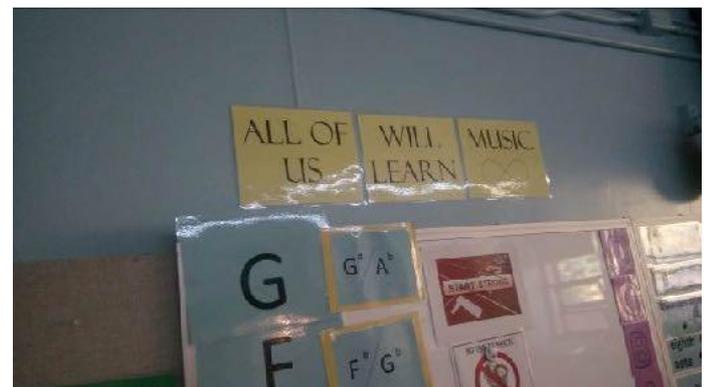
▲Reading の授業の様子



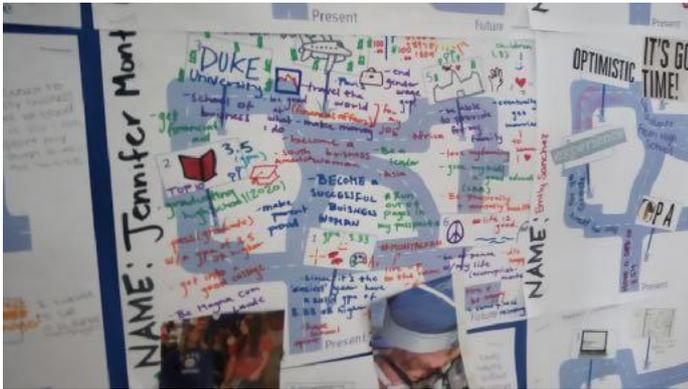
▲廊下に掲示された「性格の強化」のプリント



▲補習に参加する子どもたち



▲KIPP のモットー「全員が学ぶ」音楽室にて



▲現在から大学卒業までの計画

▲子どもたちを励ます掲示物

Grade 8	Date: 02/28/11	03	04	05	06	07	08	09	10	11	12	Total
<b>OVERALL SCORE</b>												
4.30 4.30												
<b>Math</b>												
1. Understand operations	4.11	4.14										
2. Solve word problems	4.13	4.08										
3. Use division	4.11	4.15										
<b>Math</b>												
4. Find factors for division	4.06	4.05										
5. Use division for operations	4.11	4.11										
6. Use division for word problems	4.10	4.13										
<b>Math</b>												
7. Compare numbers	4.33	4.30										
8. Find the greatest common factor	4.31	4.30										
9. Find the least common multiple	4.31	4.30										
10. Find the prime factorization	4.31	4.30										
<b>Math</b>												
11. Use the distributive property	4.34	4.34										
12. Use the distributive property	4.34	4.34										
13. Use the distributive property	4.34	4.34										
14. Use the distributive property	4.34	4.34										
<b>Math</b>												
15. Compare numbers	4.25	4.25										
16. Find the greatest common factor	4.25	4.25										
17. Find the least common multiple	4.25	4.25										
18. Find the prime factorization	4.25	4.25										
<b>Math</b>												
19. Use the distributive property	4.25	4.25										
20. Use the distributive property	4.25	4.25										
21. Use the distributive property	4.25	4.25										
22. Use the distributive property	4.25	4.25										
<b>Math</b>												
23. Use the distributive property	4.25	4.25										
24. Use the distributive property	4.25	4.25										
25. Use the distributive property	4.25	4.25										
<b>Math</b>												
26. Use the distributive property	4.25	4.25										
27. Use the distributive property	4.25	4.25										
28. Use the distributive property	4.25	4.25										
29. Use the distributive property	4.25	4.25										
30. Use the distributive property	4.25	4.25										
<b>Math</b>												
31. Use the distributive property	4.25	4.25										
32. Use the distributive property	4.25	4.25										
33. Use the distributive property	4.25	4.25										
34. Use the distributive property	4.25	4.25										
35. Use the distributive property	4.25	4.25										
<b>Math</b>												
36. Use the distributive property	4.25	4.25										
37. Use the distributive property	4.25	4.25										
38. Use the distributive property	4.25	4.25										
39. Use the distributive property	4.25	4.25										
40. Use the distributive property	4.25	4.25										
<b>Math</b>												
41. Use the distributive property	4.25	4.25										
42. Use the distributive property	4.25	4.25										
43. Use the distributive property	4.25	4.25										
44. Use the distributive property	4.25	4.25										
45. Use the distributive property	4.25	4.25										
<b>Math</b>												
46. Use the distributive property	4.25	4.25										
47. Use the distributive property	4.25	4.25										
48. Use the distributive property	4.25	4.25										
49. Use the distributive property	4.25	4.25										
50. Use the distributive property	4.25	4.25										
<b>Math</b>												
51. Use the distributive property	4.25	4.25										
52. Use the distributive property	4.25	4.25										
53. Use the distributive property	4.25	4.25										
54. Use the distributive property	4.25	4.25										
55. Use the distributive property	4.25	4.25										
<b>Math</b>												
56. Use the distributive property	4.25	4.25										
57. Use the distributive property	4.25	4.25										
58. Use the distributive property	4.25	4.25										
59. Use the distributive property	4.25	4.25										
60. Use the distributive property	4.25	4.25										
<b>Math</b>												
61. Use the distributive property	4.25	4.25										
62. Use the distributive property	4.25	4.25										
63. Use the distributive property	4.25	4.25										
64. Use the distributive property	4.25	4.25										
65. Use the distributive property	4.25	4.25										
<b>Math</b>												
66. Use the distributive property	4.25	4.25										
67. Use the distributive property	4.25	4.25										
68. Use the distributive property	4.25	4.25										
69. Use the distributive property	4.25	4.25										
70. Use the distributive property	4.25	4.25										
<b>Math</b>												
71. Use the distributive property	4.25	4.25										
72. Use the distributive property	4.25	4.25										
73. Use the distributive property	4.25	4.25										
74. Use the distributive property	4.25	4.25										
75. Use the distributive property	4.25	4.25										
<b>Math</b>												
76. Use the distributive property	4.25	4.25										
77. Use the distributive property	4.25	4.25										
78. Use the distributive property	4.25	4.25										
79. Use the distributive property	4.25	4.25										
80. Use the distributive property	4.25	4.25										
<b>Math</b>												
81. Use the distributive property	4.25	4.25										
82. Use the distributive property	4.25	4.25										
83. Use the distributive property	4.25	4.25										
84. Use the distributive property	4.25	4.25										
85. Use the distributive property	4.25	4.25										
<b>Math</b>												
86. Use the distributive property	4.25	4.25										
87. Use the distributive property	4.25	4.25										
88. Use the distributive property	4.25	4.25										
89. Use the distributive property	4.25	4.25										
90. Use the distributive property	4.25	4.25										
<b>Math</b>												
91. Use the distributive property	4.25	4.25										
92. Use the distributive property	4.25	4.25										
93. Use the distributive property	4.25	4.25										
94. Use the distributive property	4.25	4.25										
95. Use the distributive property	4.25	4.25										
<b>Math</b>												
96. Use the distributive property	4.25	4.25										
97. Use the distributive property	4.25	4.25										
98. Use the distributive property	4.25	4.25										
99. Use the distributive property	4.25	4.25										
100. Use the distributive property	4.25	4.25										
<b>Math</b>												
101. Use the distributive property	4.25	4.25										
102. Use the distributive property	4.25	4.25										
103. Use the distributive property	4.25	4.25										
104. Use the distributive property	4.25	4.25										
105. Use the distributive property	4.25	4.25										
<b>Math</b>												
106. Use the distributive property	4.25	4.25										
107. Use the distributive property	4.25	4.25										
108. Use the distributive property	4.25	4.25										
109. Use the distributive property	4.25	4.25										
110. Use the distributive property	4.25	4.25										
<b>Math</b>												
111. Use the distributive property	4.25	4.25										
112. Use the distributive property	4.25	4.25										
113. Use the distributive property	4.25	4.25										
114. Use the distributive property	4.25	4.25										
115. Use the distributive property	4.25	4.25										
<b>Math</b>												
116. Use the distributive property	4.25	4.25										
117. Use the distributive property	4.25	4.25										
118. Use the distributive property	4.25	4.25										
119. Use the distributive property	4.25	4.25										
120. Use the distributive property	4.25	4.25										
<b>Math</b>												
121. Use the distributive property	4.25	4.25										
122. Use the distributive property	4.25	4.25										
123. Use the distributive property	4.25	4.25										
124. Use the distributive property	4.25	4.25										